

環境問題への意識の高まりをチャンスと捉え、積極的にチャレンジする体制を整えています。

コロナ禍で浮き彫りになった問題の背後にある本質を見極める目が大切です。

2020年、新型コロナウイルスの影響により、生活にも経済にもさまざまな変化が起きました。

例えばリモートワークの普及や医療体制の逼迫、キャッシュレス決済の浸透などがあげられますが、よく考えてみるとこれらの背景にあるのは、急に現れた問題ではなく、東京一極集中や働き方改革、硬直的な医療体制、デジタル化の遅れなど、以前からあった問題がコロナ禍で浮き彫りになっただけともいえます。

新聞やニュースでは表層的な報道が多く、しかもバイアスがかかっていることもあるから注意が必要です。また便利な情報ツールであるインターネットから得られる情報も真実だけとは限らないので、一方的な情報だけで判断するのは危険です。

社会はたえず、さまざまに変化し続けています。物事の本質を見極めるには、一方向からだけでなく、いろいろな角度から見るのが大切です。そして普段から小さな変化にいち早く気づくことや、あらかじめさまざまな対応策を想定し体制を整えておくことが大切です。

福山工場の「モデル工場計画^(※1)」の経験から得た「改善を継続していくシステム」を全社に広げます。

福山工場は弊社の中で一番新しい工場であることから、近年さまざまな投資を行い、建物や設備を拡充してきました。その中で、新しい課題に向き合うことで若い社員の間で「なんとか実現しよう、解決しよう」とする空気が生まれ、「人の

チカラ」も伸びていくことに気づきました。

「人のチカラ」を伸ばすのに大切なのは、日常的な現場の中で起きる課題に気づき、それを解決しようとする姿勢や目です。

毎日工場で働いていても、気づこうとする姿勢がないと何も変わりませんが、「こうすればもっと良くなるのではないか」という課題解決の目を持つようになると、少しずつ現場が働きやすくなります。そして気づこうとする姿勢を、工場全体に浸透させていけば、さらに働きやすい現場になり、結果として「人のチカラ」が育ち生産性も上がってきます。

今後はこの福山モデルを、新居浜工場や鶴飼工場、総領工場にも広げていく計画です。

(※1) 詳細はP9、特集1「福山工場モデル工場計画」をご参照ください。

環境意識の高まりに的確に対応できるよう、バイオマス関連技術やESGへの戦略的強化^(※2)をはかっています。

一方、製品開発や販売の面でも、変化に気づく目を持つことや課題解決への迅速な対応は重要なテーマとなります。

近年起きている全世界的な環境意識の高まりは、天然素材を原料とする弊社にとって追い風となります。それを成果に結びつけていくため、どこでどんな変化が起き、どんな需要が生まれそうかをいち早く予測するよう、社員一丸となって多方面にアンテナを広げています。

その一環として、このたび大手飲料メーカーからバイオマス比率を高めた新たな包材用ホットメルトをご採用いただきましたが、弊社の取り組みはこうしたバイオマス製品だけにとどまりません。低炭素社会実現のために、リサイクルやリユース、リデュースなどに役立つ製品開発から生産や物流

まで含めた環境負荷削減まで、弊社の技術で何ができるかを幅広い視点から検討・提案しています。

さらには環境面だけでなく、社会活動や企業姿勢などのESG全般において、弊社の果たす役割をしっかりと考え、より働きやすい職場づくり、より暮らしやすいまちづくりにも貢献していきます。

(※2) 詳細はP11、特集2「環境配慮製品開発と販売への取り組み」をご参照ください。

明日への希望の持てる日本にするために、 小さくても特色のある会社であり続けます。

コロナ禍で先行きの見えにくい状況が続き、明日への希望が持てないような雰囲気や日本中に広がっていると感じています。こうした雰囲気を明るい方へ変えていくには、一人ひとりの人が前向きに行動することが大切だと思います。

日本中には変わることを恐れている会社もありますが、変化しないままでは汎用品の製造はどんどん新興国に移管され、将来は先細りするだけです。私はヤスハラケミカルを、変わることを恐れず変化に柔軟に対応することで、将来への種まきができる会社になりたいと考えています。そして「小さくても特色のある会社」であり続けたいと願い、社員一人ひとりに社会の変化や物事の本質を見極める目を持つように言い続けています。そうすることが人を育て、会社を変えていく原動力になると思います。

日本中に、変化に対応しながら前向きに進む「小さくても特色のある会社」が増えていくことで、明日への希望の持てる日本に、もっと暮らしやすい日本になっていくことを願っています。

ヤスハラケミカル株式会社

代表取締役社長 **安原 旗 二**

Teiji Yasuhara

